

「AIエージェントからAGIへ」

～その定義と実現性とインパクト～

- AGIの定義と従来AIとの違い
- AGIの実現可能性とタイムライン
- 通信・ICT業界への直接的影響
- ガバナンス・リスクマネジメント

(座長 —— 総合司会) 東京大学 名誉教授

齊藤忠夫氏

講

ガートナージャパン株式会社 バイスプレジデント プログラムディレクター 諸橋知雄氏

師

株式会社KDDI総合研究所 リサーチフェロー

小林雅一氏

株式会社日本総合研究所 先端技術ラボ 次長

近藤浩史氏

(講演順)

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-00036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F TEL 03(6416)0190(代) FAX 03(6416)5351

「マルチメディア推進フォーラム」のご案内

明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、今まで気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになっている。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信（機械と機械の通信）と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不充分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になろう。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム

— P A R T 993 —

」開催内容

(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「AIエージェントからAGIへ」～その定義と実現性とインパクト～

日 時 2025年 11月 19日 (水) 13時00分～16時50分

時間	講 演 内 容	講 師
----	---------	-----

(本フォーラムの趣旨・論点)

- AGIの定義と従来AIとの違い
- AGIの実現可能性とタイムライン
- 通信・ICT業界への直接的影響
- ガバナンス・リスクマネジメント

生成AIの急速な普及により、通信・ICT業界は大きな転換点を迎えていました。これまでAIは、ネットワーク運用の自動化や顧客対応の効率化など、特定領域での活用が中心でした。しかし今、議論の中心に浮上しているのが「汎用人工知能 (AGI: Artificial General Intelligence)」です。AGIは、人間の知的活動の大部分を横断的に担い、自己学習によって未知の課題にも対応できるとされます。既存の生成AIや特化型AIを超えた存在として、世界中の企業が開発競争を繰り広げています。

通信事業者やICTベンダにとって重要なのは、このAGIが「自社の事業や業務をどう変えるのか」「どの領域でリスクとチャンスが顕在化するのか」という視点です。AGIは、ネットワーク運用や障害対応の高度自動化、カスタマーサポートの完全自律化、膨大なデータを活用した新しいサービスの創出など、業界に大規模なインパクトを及ぼします。同時に、雇用構造の変化、ガバナンスの課題、国際競争力の逆転といったリスク要因も孕んでいます。

今回の講演会「AIエージェントからAGIへ～その定義と実現性とインパクト～」は、こうした視点を深掘りし、業界関係者にとって具体的な示唆を提供します。

まず、AIが社会にもたらす価値の再定義について、議論します。AIと人間が知をどのように共有し補完し合うのか、その哲学的視点は、通信や情報サービスに携わる企業が「人とAIの協働による価値創出」を考える上での基盤となります。

続いて、AGIが従来の生成AIと何が違うのか、企業が競争優位を築くためにどのような準備をすべきかについて議論します。特に、通信事業者やベンダが直面する倫理・法規制への対応、顧客データ保護、サービス提供におけるリスクマネジメントなど、実務直結のガバナンス課題を議論します。

また、「1～5年以内に実現されそうなAGI」をテーマに、近未来のロードマップを展望します。ここでは、AGIが労働力として導入される場合の影響、ネットワークオペレーションやカスタマーサービスの構造変化、そしてグローバル競争の中で日本企業が取り残されないための準備について論じます。

最後に、最新の技術動向を踏まえ、AGIが社会と産業にもたらすインパクトを俯瞰しつつ、通信・ICT業界のプレイヤーがどのようにマネタイズの道を描くかに焦点を当てます。サービスモデル転換、アライアンス戦略、エコシステム形成など、ベンダ・販社・事業者に共通する課題に直結する内容となります。

AGIの到来は、業務効率化やコスト削減を超えて、産業構造そのものを変える「地殻変動」です。ネットワークの設計・運用、クラウド・データセンター事業、顧客体験 (CX)、さらには新しい価値提案の形まで、あらゆる領域で再定義が迫られます。対応を誤れば競争力を失うリスクがありますが、早く着手すれば新たな成長の機会を掴むことができます。

本講演会は、「通信事業者・ベンダとしてどのような行動を取るべきか」を考えるための具体的な材料を提供します。参加者の皆さまが、自社の業務や戦略に直結する知見を持ち帰り、次の一手を考えるうえで大きな力となることを期待しています。

(座長-総合司会)

東京大学 名誉教授 齊 藤 忠 夫

13:00 ～ 13:20	<p>(基調講演) 「知識の未来とAI社会の展望」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人工知能の進展がもたらす価値の再定義 ●知識とは誰のものか、そして誰のためのものか ●人とAIが相互に補完し、豊かな未来を築くための哲学と仕組み 	質 疑 応 答	<p>齊藤忠夫氏 東京大学 名誉教授</p>
13:20 ～ 14:25	<p>(現時点のAI/AIエージェント開発) 「最先端のAI/AIエージェントの開発動向とAGIに向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最先端のAI/AIエージェントの開発動向 ●最先端のAI/AIエージェントからAGIへのギャップ ●米中の最先端AIの開発状況 	質 疑 応 答	<p>諸橋知雄氏 ガートナージャパン株式会社 バイスプレジデント プログラムディレクター</p>
(休憩) (14:25 ～14:35)			
14:35 ～ 15:40	<p>(実現可能性) 「AGI（汎用人工知能）の夢と現実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●AGIの定義 ●労働力としての意味 ●世界の勢力図を変えるAGI 	質 疑 応 答	<p>小林雅一氏 株式会社KDDI総合研究所 リサーチフェロー</p>
(休憩) (15:40 ～15:45)			
15:45 ～ 16:50	<p>(技術動向) 「汎用AIの現状と展望- 実現への見通しと社会への影響」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●汎用AIの概況 ●汎用AI実現への見通し ●汎用AIが与える影響 	質 疑 応 答	<p>近藤浩史氏 株式会社日本総合研究所 先端技術ラボ 次長</p>

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

「マルチメディア推進フォーラム」委員会

稻葉 陽子 (株)NTTデータグループ

委員長
齊藤 忠夫 東京大学
(運営諮問委員会幹事)

代表幹事
齊藤 忠夫 東京大学
名誉教授

副代表幹事
服部 武 上智大学
森川 博之 東京大学
成宮 憲一 一般社団法人
科学技術と経済の会
専務理事

幹事
尾上 誠三 国際電気通信連合 (ITU) 電気通信標準化局長
川野 真穂 総務省 国際戦略局 技術政策課長
間宮 淑夫 内閣官房 内閣審議官
渡邊 昇治 経済産業省 商務情報政策局 総務課長
西尾 崇 国立研究開発法人 土木研究所
戦略的イノベーション研究推進事務局 次長
取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

立川 敬二 (株)ハイテクノロジー推進研究所
伊藤 寿浩 日本放送協会
川添 雄彦 NTT株
池田 敬 NTT東日本株
桂 一詞 NTT西日本株
海老原 孝 NTT株
佐藤 隆明 (株)NTTドコモ
伊東 崑 NTTアドバンステクノロジ株
技術局長
チーフエグゼクティブフェロー
代表取締役副社長
代表取締役副社長
常務執行役員 技術企画部門長
代表取締役副社長 CTO, CAIO, CPO
代表取締役社長

杉本 榮一 自由民主党

甘利 明 元・経済産業大臣
金子 一義 元・国土交通大臣
林 芳正 元・防衛大臣

中村 元 KDDI株
宮川 潤一 ソフトバンク株
石原 直 東京大学大学院
浅見 徹 株国際電気通信基礎技術研究所
遠藤 信博 日本電気株
新野 隆 日本電気株
木内 道男 日本電気株

高木 康志 富士通(株) SVP システムプラットフォームBG エグゼディレクター
石田 貴一 (株)日立製作所 事業部長
伊藤 明男 (株)日立国際電気 副社長執行役員
加茂下哲夫 (株)アリューションズ&ネットワークス 代表執行役員社長

(主な設立発起人)

齊藤 忠夫 東京大学
吉川 弘之 東京大学
立川 敬二 (株)ハイテクノロジー推進研究所
杉本 榮一 自由民主党

(最高顧問)

甘利 明 元・経済産業大臣
金子 一義 元・国土交通大臣
林 芳正 元・防衛大臣

マルチメディア推進フォーラム – PART993 – 開催

●日時 2025年 11月 19日 (水) 13時00分～16時50分

●本フォーラムは会員様限定Zoomでのオンラインフォーラムとなります。

オンラインのみの開催となりますのでご了承の上お申込み下さい。

(一部、一般受講も受付ておりますのでご希望の方はお問合せ下さい。)

●参加申込要領

●受講料 ￥54,020.- (消費税を含む)

●申込先 事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-6416-0190
〒150-0036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F FAX (03)-6416-5351
E-mail fm@ahri.co.jp

●申込方法 申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上
(<http://www.ahri.co.jp>)にてお申し込み下さい。

●送金方法 銀行振込 みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932(普)
三菱UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194(普)
※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。

●キャンセル フォーラム開催前、11月12日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡をお願い
申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は
代理の方の出席か当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。

●申込書について ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させて頂きます。

尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させて頂きますが、今後 弊社からのご案
内を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

きりとり線

「マルチメディア推進フォーラム – PART993 – 申込書

(申込日) 月 日

会社名				TEL () FAX () E-mail:
会社住所	〒			
NO	受講者・所属・役職			受講者氏名(ふりがな)
支払方法	●銀行振込 (年 月 日振込予定)	銀行	通信欄	請求書一要・不要